

# 事故防止に向けた安全対策

## 【 相撲 】

### 1 競技特性

- (1) 実技指導書等を参考に、競技の特性や特徴を記載する
- (2) 競技特性に応じた事故の特徴を記載する
- (3) 過去の重大事故例等を記載する

### 2 想定される事故事例と予防策

#### (1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土俵のひび割れ、破損など</li> <li>・建物の整備や点検不足に よる事故等</li> <li>・まわしの着用に関する怪我</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足首の捻挫</li> <li>・足底部擦過傷</li> <li>・足下脱臼</li> <li>・傷口からの炎症</li> <li>・頭部の打撲</li> <li>・腰部の打撲</li> <li>・膝、肘の打撲</li> <li>・背部の打撲</li> <li>・胸部の打撲</li> <li>・手指捻挫</li> <li>・手指脱臼</li> <li>・手指骨折</li> <li>・股下部擦過傷</li> <li>・局所の打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土俵の土を常に平に敷いて表面をしっかりと 固める。</li> <li>・土俵の砂は細かく土俵内と土俵の外回りに 均等に散布し足の裏や倒れた場合の怪我等 に備える。</li> <li>・使用前後に状態確認し、適切な補修を行う</li> <li>・むき出しの柱、鉄骨、壁の角等に防御マッ トを巻くなどをして防止する。</li> <li>・道場が狭い場合は危険地帯を選手に分かる ように場所を示す</li> <li>・相撲場の安全管理には、安全点検表を作成 し、定期的な安全点検と活動前の安全点検 を、顧問が行う。</li> <li>・まわしの特性として、裸体で競技する選手 の内蔵を保護する役割を果たしている。そ のために、間違った締め方や、だらしない 締め方が怪我の原因になるので選手の体 つきに合わせ固めに締める。</li> <li>・まわしの緩み防止のため、折り目や縦まわしに注意して締める。</li> <li>・局部を保護するために、まわしを締めると きには前袋の作成には注意する。</li> </ul>

#### (2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人技能における怪我</li> <li>・押し、突き、立ち会いに おける怪我</li> <li>・投げ技における怪我</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の外傷</li> <li>・頭部外傷</li> <li>・内腔内部の外傷</li> <li>・手指骨折</li> <li>・手指脱臼</li> <li>・手指捻挫</li> <li>・脳震盪</li> <li>・首捻挫</li> <li>・腰部打撲、捻挫</li> <li>・膝関節捻挫、打撲</li> <li>・肩の打撲、脱臼</li> <li>・足首の捻挫、骨折</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動や補助運動の重要性について十分 に説明し理解を深めさせる</li> <li>・各部の補助運動を行う。</li> <li>・対人的技能の稽古の強化を行う。</li> <li>・関節の怪我防止のため、テーピングや包帯 等で保護して怪我や怪我の再発防止に注意 させる。</li> <li>・立ち会いによって起こる、脳や首への怪我 防止のため、適切な助言をする。</li> <li>・必要に応じては、稽古を一時中断して、個 別指導を行う。</li> <li>・準備運動や補助運動の重要性について十分 に説明し理解を深めさせる。</li> <li>・転倒法の稽古を行う</li> <li>・各部の補助運動を行う。</li> <li>・投げられた時などは、相手のまわしを離し、危険な倒れ方を防ぐ。</li> <li>・激しい身体接触に耐えることのできる体力トレーニングを行う。</li> </ul>

・ 禁じ手による怪我	・ 各部位の外傷、打撲、脱臼、骨折	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 禁止事項やマナーを普段から重視し禁じ手が出そうになったらすぐに競技を止める。</li> <li>・ 「礼」を重んじ相手を尊重する指導をする。</li> <li>・ ルールや約束を遵守する指導をする。</li> <li>・ 必要に応じては、稽古を一時中断して、個別指導を行う。</li> </ul>
------------	-------------------	---

### (3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高温多湿の環境下や長時間にわたる練習</li> <li>・ 災害時の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱中症</li> <li>・ 避難時の外傷等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境状況に応じた運動、休憩、水分補給等の計画を立てる</li> <li>・ 冷房が使用可能な施設においては積極的に使用する</li> <li>・ 効率的な換気を行う</li> <li>・ 避難の必要が生じる場合を想定した避難場所、経路の確保及び指定</li> <li>・ 関係者及び保護者等との連絡方法について準備しておく。</li> </ul>